

# めでいかすとり Médicastre

## 一般社団法人 鶴岡地区医師会 基本理念

鶴岡地区医師会は、地域住民の健康維持・増進と健やかな長寿社会の実現のために地域に貢献するとともに、医の心を忘れず知識と技術の向上をめざし、不断の研鑽に励みながら日々前進する組織をめざします。



「大山公園から望む早春の月山」

## 第44回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和 6 年 11 月 26 日(火) 18:30～  
場所：グラウンド エル・サン

令和 7 年 1 月号に続き、鶴岡市立荘内病院診療部栄養科副科長 管理栄養士 富樫 博子 氏、鶴岡地区医師会副会長 菅原 真樹 先生の抄録を掲載いたします。

\* \* \* \* \*

### よりおいしい食事を患者様へ ～クリニカルフード事業始めました～

鶴岡市立荘内病院 診療部栄養科副科長 管理栄養士 富樫 博子



#### 【はじめに】

栄養療法はすべての治療の基盤であり、病院食は治療の一環として提供しています。しかし、ここ数年物価は高騰し続け、一方で国からの食事療養費は30年近く据え置かれ、「もう限界」とどの病院でも給食部門の赤字経営が大きな問題となっています。

#### 【SDGsの取組】

「クリニカルフード事業」は、そうした事情も背景に地元産食材を使いながら、より安く、よりおいしい病院食を提供したいという思いで検討を始めたものです。おいしさや治療効果に加え、安全・安心を大切にしながら、持続可能で魅力ある病院食を提供したいとの思いも込め、当院で命名しました。

CO<sub>2</sub>の削減に向けて私たちができるSDGsは、摂取したものを効率よく体内で栄養に変えること、すなわち腸内環境を整えることです。また栄養部門としてできるSDGsは「地産地消」です。

そのため、食材の一部に地元産の低・未利用魚と規格外野菜の活用ができないかと、由良の県漁協やJA鶴岡等に相談し、結果として多くの皆様のご協力のもと、地元で採れた食材を有効に活用し、患者さんの治療につながる食事の提供が可能となりました(図1)。

また、「ヤマダイミズアブプロジェクト」は、山形大学農学部佐藤智准教授の環境プロジェクトとして行われているものですが、この取組に当院も関わっています。ミズアブの幼虫に食品残渣を餌として与え、育った幼虫は鶏や豚の飼料となり、フンは農作物の肥料となります。

当院では、調理の際に出る「野菜くず」を提供していますが、ミズアブの幼虫は体の60%がたんぱく質であり、フンは腸内細菌叢が優れているため、これらは貴重な飼料や肥料になります。昨年度からは、荘内病院・山形大学農学部・庄内農業高校での資源循環サイクル(図2)を開始しており、今年度は作物のメタボローム解析を依頼中です。

当院でのこうした取組をSNSで積極的に発信したところ、患者さんからの温かいご意見が増えてきており、取組の効果を実感しています。



図1 提供したメニューの一部

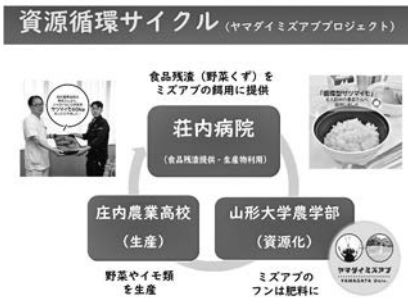


図2 資源循環サイクル

## 【まとめ】

「ユネスコ食文化創造都市」「食の都庄内」「おいしい庄内空港」、このような地で管理栄養士として「食」に関わる仕事ができることは、この上ない幸せで名誉なことです。先輩方から受け継いだレシピは庄内病院の財産であり、これからも鶴岡の食文化を継承していきたいと思います。そして、家庭の次においしい食事の提供を目指す、一番はおうちの食事であってほしいとの願いを込めて。

\* \* \* \* \*

## 地域医療を支えるために今必要なこと

鶴岡地区医師会 副会長 菅原 真樹

現在、地域医療を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。特に南庄内地域では、医師の高齢化や承継問題、病院の閉院・縮小、小児科医・産婦人科医の不足といった課題が山積んでいます。地域医療の現状と直面している課題、さらにはそれに対する具体的な取り組みについて提示します。

南庄内地域の医療課題では、慢性的な医師不足により、十分な医療を提供できない分野が存在しています。特に小児科医や産婦人科医の不足は深刻であり、また、救急医療体制も十分ではありません。また、医師の高齢化が進み、クリニックの承継問題も大きな課題となっています。加えて、学校医、園医、産業医、警察検案医、施設の嘱託医の不足も指摘されています。

### ・課題解決に必要な取り組み

#### 1. 医療承継の問題

医療承継には、国・県・市町村レベルでの支援が不可欠です。医師会と金融機関の協力により、医業承継を成功させたケースもあり、こうした取り組みを広げることが求められます。

#### 2. 若手医師の定着

若手医師が長く勤務できる環境を整備することが重要です。専門性の向上支援や奨学金制度、住宅支援、子育て支援などの施策を充実させる必要があります。

#### 3. 医師の負担軽減

医師の負担を減らすために、市民への教育と啓発が不可欠です。休日や夜間のコンビニ受診を減らし、緊急医療の適正利用を促進するべきです。

#### 4. 地域との連携強化

病診連携を強化し、診療所の医師が病院に関与する仕組みを構築することが求められます。介護施設との連携を深めることで、地域全体での医療体制の強化を図ります。

#### 5. 訪問診療・在宅医療の充実

訪問診療専門クリニックや緩和ケア病棟の充実が必要です。また、首都圏の医師を活用し、当直業務や長期休暇時の対応、遠隔診療の導入を進めることも効果的です。

#### 6. 看取り体制の整備

時間外での対応を減らし、医師以外の看取り資格を整備することで、在宅医療の負担を軽減することができます。

#### 7. デジタル技術の活用

スマートフォンやタブレット、AI技術を活用し、医療補助機能を強化することで業務効率を向上させることができます。

南庄内地域の医療を持続可能なものにするためには、さまざまな課題を解決し、地域全体で医療体制を支えていく必要があります。若手医師の定着、医療のデジタル化、地域との連携強化など、多面的な取り組みを進めることで、より良い医療環境の実現を目指していきましょう。



## 鶴岡地区医師会新年祝賀会

日時：令和7年1月17日(金) 18:30～

場所：新茶屋

1月17日、雪の降りしきる中、来賓28名をお招きし、会員の先生方24名、職員10名、総勢62名が出席し、新茶屋にて新年祝賀会が開催されました。

はじめに、福原晶子会長が挨拶し、昨年発生した能登の地震や庄内を襲った豪雨災害、南海トラフ巨大地震などいつ起きてもおかしくない災害への備えの重要性に触れられ、依然流行の収束する気配のないコロナウイルスや現在、猛威を振っているインフルエンザなど、感染症の状況などについてもお話がありました。その後、医師会各事業の状況の報告に続き、会員数の減少や会員の高齢化、人材確保など医師会が抱える課題は多いが、医師会が地域の皆さまから選ばれる組織となることを目指して、一丸となって立ち向かっていくとの決意を述べられました。

続いて、来賓を代表して衆議院議員加藤鮎子様、鶴岡市長皆川治様、酒田地区医師会十全堂会長酒井朋久様の3名からご祝辞を賜りました。その後、福原会長より来賓の皆様のご紹介があり、三川町長の阿部誠様のご発声で乾杯となり、祝宴がはじまりました。

美味しい料理とお酒を楽しみながら、参会された皆さまは積極的に交流を深められていました。地域の様々な課題の解決や医療の発展のためにも、このように顔を合わせて情報交換を行う機会がとても重要であると改めて実感しました。

最後に、石原良副会長の挨拶と一丁締めにより、和やかな会が閉会となりました。

介護老人保健施設みずばしょう 次長 難波 崇



福原晶子会長



加藤鮎子衆議院議員



皆川治鶴岡市長



酒井朋久酒田地区医師会  
十全堂会長



阿部誠三川町長



石原良副会長



## 令和 6 年度 地域医療連携推進協議会・登録医・医師会・荘内病院合同懇談会

日時：令和 6 年 12 月 10 日(火) 19:00～  
場所：東京第一ホテル鶴岡

令和 6 年 12 月 10 日 19 時より、東京第一ホテル鶴岡を会場に「令和 6 年度地域医療連携推進協議会・登録医・医師会・荘内病院合同懇談会」を開催し、75 名に出席いただきました。

今年は第 1 部では演題 2 題を発表し、第 2 部では美味しい料理やお酒を嗜みながら、それぞれの立場から日頃の連携について語り合う有意義な機会となりました。



(研修医の紹介)

### 【第 1 題】「鶴岡市立荘内病院における眼科治療」

鶴岡市立荘内病院 眼科医長 小松 哲也



当院の眼科では、一般的な眼科診療に加え、東邦大学から専門医を定期的にお呼びし、角膜、網膜・硝子体、緑内障の専門外来を実施しています。診療体制として、外来診療は火曜日を除く平日午前中に行い、手術は月曜・水曜の午後と火曜日の終日に実施しています。また、視野検査などの時間を要する検査については、木曜・金曜の午後に予約制で対応しています。

診療実績として、月間の外来患者数は 600-700 人程度で、白内障手術件数は前年比約 100 件増の年間 700 件程度を見込んでいます。また、私の専門である緑内障手術も年間 100 件程度実施しています。白内障は、水晶体が白く濁ることで視機能が低下する疾患です。主な症状として、かすみ目、視界の暗さ、ぼやけ、複視、眩しさなどが挙げられます。加齢が主な原因ですが、糖尿病やアトピー性皮膚炎、ぶどう膜炎、ステロイド使用なども進行を促進する要因となります。80 歳以上ではほぼ全員が発症するとされ、認知症発症リスクとの関連も報告されています。当院では、患者負担の少ない小切開手術を採用しています。緑内障は、40 歳以上の約 5% が罹患する疾患で、自覚症状に乏しい視野欠損が特徴です。治療は点眼薬による保存的治療が基本ですが、高齢化に伴う認知機能低下や細かな動作の困難さにより点眼が難しくなった場合は、手術治療を推奨しています。当院では様々な緑内障手術に対応しており、特に白内障手術と併用可能な低侵襲緑内障手術も導入しています。このように当院では、地域の眼科医療の中核として、最新の治療法を取り入れながら、患者さんの状態に応じた適切な医療を提供しています。眼でお困りの際はご相談ください。

## 【第2題】「緩和医療 難治性疼痛へのアプローチ」

鶴岡市立荘内病院 麻酔科医長兼緩和ケア内科医長 栗原 二葉

### 神経ブロックとメサドンの活用

緩和ケアにおいて、難治性疼痛は患者のQOLを大きく損ない、在宅療養の妨げとなる深刻な問題です。特にがん患者さんにおいては、その傾向が顕著に見られます。庄内地方のように緩和ケアの地域連携が強固な地域においても、難治性疼痛を抱える患者さんに対しては、病院での適切な疼痛コントロールが不可欠です。



### 神経ブロック：多様な疼痛へのアプローチ

難治性疼痛へのアプローチとして、薬物療法に加え、神経ブロックが注目されています。神経ブロックは、特定の神経に薬物を注入することで痛みを軽減する治療法です。膵臓がんや胆のうがんによる上腹部痛に対しては、腹腔神経叢ブロックが有効です。子宮がんや卵巣がんなどによる骨盤内臓痛に対しては、サドルブロックが有効です。脊髄クモ膜下ブロックによる局所的な鎮痛など、様々な疼痛に対して適切な神経ブロックを選択します。神経ブロックは、早期から併用することで、疼痛の軽減だけでなく、活動性の向上にもつながり、化学療法などの他の治療も円滑に行えるようになる可能性があります。

### メサドン：高用量オピオイドの代替としての可能性

オピオイドは難治性疼痛の治療に広く用いられていますが、高用量になると副作用が強く、増量が困難になることがあります。また、依存性のリスクも懸念されます。メサドンは、他のオピオイドに比べて1日の内服量が少なく、長期間の投与に適しており、副作用も比較的少ないことが特徴です。高用量オピオイドの代替として、メサドンは難治性疼痛の管理に新たな可能性をもたらします。

### まとめ

難治性疼痛は、緩和ケアにおける重要な課題です。新たな治療法を積極的に導入し、多職種が連携することで、より多くの患者さんが、尊厳ある人生を送れるよう支援していくことが求められます。神経ブロックやメサドンなどの新たなアプローチを積極的に導入することで、痛みから解放され、QOLが向上することが期待されます。

## 令和6年の鶴岡警察署管内における検視立会および検案依頼状況について

警察・検案医委員会 委員長 福原 晶子

令和6年1月～12月の鶴岡警察署管内の検視立会および検案依頼状況についてご報告します。総数は199件で、昨年より24件の減となりました。内訳をみると、警察医が2件減の146件と全体の7割以上を占め、相変わらずお一人で担当してくださっていました。他は、搬送病院医師が14件減、協力医が7件減、かかりつけ医が1件減の3件、という結果で、昨年増加した協力医の件数が再び減少したのは残念でした。他地域では、検案はお一人でせいぜい50件程度、というところが多く、鶴岡の場合は異例です。

現在、警察からの検案依頼は、以前のように夜間や休日など、または診療時間中に、ご遺体のあるお宅に出向くことはありません。ご遺体は、警察署内の冷蔵庫に安置され、検案医の都合に合わせて検案を実施することが可能になっています。また、昨年3月から心筋トロポニンT検査も不要になり、検案に要する時間もかなり短縮されています。

今後も、警察医の負担軽減のために、協力医やかかりつけ医に警察からの依頼があった際には、是非、ご協力をお願いいたします。また、検案についてご不安がある場合には、同行して一緒に検案業務を行うこともできますので、お申し出ください。

### 検視立会および検案依頼状況

◎鶴岡署管内の検視状況（令和6年中）

単位：件

警察医 ※	病院搬送	警察協力医	かかりつけ医	合計
146	47	3	3	199

※警察医は全体の73.4%を担当

◎過去5年間

単位：件

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	平均
検視等立会医師	115	158	151	148	146	143.6
病院搬送	32	46	81	61	47	53.4
一般医師	2	6	5	14	6	6.6
合計	149	210	237	223	199	203.6

## 新規開業医紹介

みなみまちクリニック  
院長 竹田 文洋

院長の経歴や開業に至ったいきさつは他のところにも載せましたので簡単に書きます。昭和43年生まれ、若葉幼稚園、朝暘第三小学校、鶴岡第四中学校、鶴岡南高校、弘前大学を卒業し、山形県立中央病院で内科中心に研修後山形大学第二外科に入局しました。しばらく心臓血管・呼吸器・消化器・小児外科の診療に従事し、山形県内を中心とした関連病院に出張しました。荘内病院赴任後に内科に転籍し、令和6年5月1日鶴岡市本町二丁目に開業しました。内科・外科を標榜しておりますが、上記の臨床経験を活かし幅広い疾患・年齢層を対象とし、また訪問診療など未経験の分野にも領域を拡げ地域に貢献していきたいと考えております。

荘内病院での重症患者中心の診療はもちろん意義深いものでやり甲斐を感じておりましたが、一方でしばしば脳裏をよぎったのが「どうしてこんなにひどくなるまで放っておいたのだろうか？」という疑問でした。多忙・慢心・病識不足・不安・経済状況など事情はさまざまですが、「医療へアクセスしにくい環境」を背景として疾患が重症化してしまったと考えられる事例が少なからず見受けられました。そういう意味では中核病院の仕事は少なくとも私の中では受動的であり、訪問診療を含めてもっと患者さんに近づいていき、相談しやすい医療者になることでより能動的に地域に貢献したいという気持ちが高まってきました。

開業準備の段階からたくさんの方々にお世話になりたいへん有難かったです。同時に病院ではほとんど不要だった医療関係者以外との打ち合わせ・交渉・契約などの業務をすることになり、今まで大半の時間を捧げてきた病院内とは比べものにならないくらい広い領域、深いノウハウ、多様な業種と人間関係があり、戸惑うと同時に知らない世界に足を踏み入れていく高揚感がありました。そこにある持ちつ持たれつ

的なお互い様感が心地よくさえ感じられ、患者さんに近づくのと同じように他業種の方々に近づけるとすればうれしいと思うようになりました。

もちろんまだまだ医者の世界知らずの域を脱してはいないわけですが、もっと社会や経済のことを勉強して、地域住民に近い、というよりは地域住民の中に溶け込み、地域住民と持ちつ持たれつ関係のクリニックを目指すことが理想と思えてきました。

地元で開業できたことは幸運だったと思います。現在来院して下さる方々は、病院から転医して下さった方、開業後にご紹介頂いた方、ホームページやBloomを見た方、クリニックの近所の方、院長の同級生とその家族、院長と家族がお世話になってきた町内会・幼稚園・PTA・スポ少・サッカークラブ関係者、スタッフの知り合いの方、通院中の患者さんから勧められた方など多彩です。そして開業前後にお世話になった他業種の方と持ちつ持たれつ関係も少しずつでき始め、医療を提供して恩返しできることに喜びを感じています。時々ですが「ここは泌尿器科だろ？」と入ってくるおじいちゃんもいます。もちろん話だけでも聞いて、何かお役に立てることがないかと考えるようにしています。





## Introduction

## 研修医

「非公認」Jリーグ応援大使です！」



皆様、いつもお世話になっております。鶴岡市立荘内病院研修医 1 年目の和田一平（わだ いっぺい）と申します。出身は神奈川県横浜市で、出身大学は山形大学です。鶴岡に来て 1 年が経ちますが、冬は寒い

ですね～。風が強くて驚いております。大学時代は山形市に 6 年間住んでいたもので寒さには慣れたつもりでしたが、まだまだでした（笑）。冬には慣れませんが、鶴岡は四季折々の美しい自然に囲まれた場所でご飯も美味しく、快適に過ごさせていただいております。

鶴岡との出会いは大学生時代に荘内病院での実習で 1 ヶ月間お世話になったことでした。病院の雰囲気だけでなく、のどかな鶴岡の環境を魅力的に思い、この地で研修をスタートさせていただきました。荘内病院のスタッフの皆さんはとても優しく、とても良い環境で働かせていただいております。地域の皆様も人柄がよく、この優しい地域性には助けられております。

皆様に覚えていただけるよう面白いことを書こうと意気込んでおりましたが、何も話題がなく、如何に自分に取り柄がないか痛感しておりました（反省）。面白いかは別として、私の唯一の趣味であるサッカーについて書かせていただきます。

私は大学から山形で過ごしておりますが、縁もゆかりもない山形に何故来たかといいますと、サッカー天皇杯に出場するためでした。上手いとは言えませんが長年サッカーをやっております、大学時代には山形大学医学部サッカー部に所属し、山形県代表として天皇杯本戦に出場させていただきました。サッカーをプレーすることだけに飽き足らず、サッカーの指導者ライセンス（B 級）も取得しております。鶴岡に来てからもサッカーやフットサルに誘っ

鶴岡市立荘内病院臨床研修医 1 年目 <sup>わだ いっぺい</sup> 和田 一平

ていただき、地域の皆さんと交流でき楽しく過ごさせていただいております。私より年上の方とのプレーが多いですが、皆さん私よりも走ることができ本当に驚いております。

そんな私ですが、鶴岡に来て後悔したことが一つだけあります。それは Jリーグのスタジアムが近くにないことです。Jリーグ観戦も好きで地元の川崎フロンターレのサポーターを 20 年以上しております。フロンターレに限らず、山形に来てからはモンテディオ山形も応援しております。学生時代からよく試合観戦をしておりましたが、モンテのスタジアムは天童市のため、鶴岡からは 1 時間 30 分もかかり移動に一苦勞です。Jリーグをこよなく愛する私にとって最大の過ちでした（笑）。そんな絶望の中、鶴岡に住んで気がついたことがあります。それは秋田・新潟が意外と近いということです。新潟にも秋田にも Jリーグのチームがあり、ブラウブリッツ秋田には 2 時間、アルビレックス新潟には 2 時間 30 分あれば行けます！もちろん山形県民としてモンテを応援しておりますが、たまに他のチームを観に行くのは楽しいです。晴れた日にスタジアムを目指し、海沿いの道をドライブするのはとても気持ちがいいです。秋田へ行く時は象潟、新潟へ行く時は湯野浜・温海あたりでしょうか。そして生でみるサッカーの迫力はぜひ一度体感していただきたいです。最近はこのスタジアムでもスタジアムグルメを食べられたり、様々なイベントも開催しているのでサッカーに興味のない方でも楽しめると思います。ぜひ一度スタジアムへ足を運んでいただけたら嬉しいです。

Jリーグの宣伝になってしまいましたが、鶴岡に来たからにはこの素晴らしい地域の皆様のお役に立てるように日々精進する所存であります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

# My Memories

第 2 回

幼少期や学生時代の思い出のエピソードなどを語っていただきました。



真島医院 真島 英太



これは私が 2 歳の頃の写真です。小学生の頃から歴史に夢中になり、日本史・世界史を問わず漫画や小説を読み漁る少し変わった子供でした。高校生までは歴史学者を目指そうかなんて考えていましたが、いつの間にか医学の道を志し、今に至ります。そして今は私の子供も歴史にハマリ、欲しい本を買い与えるのが楽しみの一つになりました。ただ最近ではその知識や質問が鋭さを増し、深い議論に押され気味になることもしばしば。思いがけず頼もしい歴史仲間ができたことは、嬉しい誤算です。



\*\*\*\*\*

中目内科胃腸科医院 中目 哲平

8 歳の頃で、たまたま何かの拍子に出てきた写真です。

一緒に写っているのは叔母の犬（ヨークシャーテリアであろう）で、“ダイスケ”という名前でした。祖父が犬好きであったため（一方、父はどちらかというと犬が苦手？嫌い？で、関心はなかったようです）、室内犬としてチワワ 2 匹を飼っておりました。しつけ不足だったためか、室内でおしっこやうんちをすることがあり、うっかり踏みつけてしまうこともありました。なつくとかわいいもので、食事中になると自分の椅子の下にやってきて、食べ物を欲しがります。自分が嫌いな食べ物をそっと犬に食べさせていた記憶があります。



小さい頃、よく犬と遊んでいた記憶がよみがえる懐かしい写真です。



## 令和 6 年度 第 10 回 定例 理事会

(令和 7 年 1 月 27 日)

出席者	会 副 理	長 副 事	長 事	菅原真樹 三原一郎 須貝孝一 木根淵智子	蘆野吉和 三浦道治 真島英太	本田 学 渡邊秀平	吉田 宏 中目哲平	岡田恒人
	監 議 副 事	事 長 務	事 長 局	阿部周市 堀内隆三 三井卓弥 土屋清光	五十嵐亜希	井上祐司	長谷川典子	

### 報 告

#### 総 務

- (1) 県医第 8 回常任理事会について (鈴木理事)  
1 月 8 日(火) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- (2) 県医第 12 回全理事会について (阿部監事)  
1 月 22 日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- (3) 庄内地域保健医療協議会について (福原会長)  
1 月 20 日(月) 18:30 オンライン開催
- (4) 職員の退職について (三浦理事)
- (5) 令和 6 年 12 月期事業会計収入実績について (参考)
- (6) 歯科医師会新年祝賀会について (福原会長)  
1 月 16 日(木) 18:00 グランドエル・サン
- (7) 医師会新年祝賀会について (福原会長)  
1 月 17 日(金) 18:30 新茶屋
- (8) 薬剤師会新年祝賀会について (福原会長)  
1 月 25 日(土) 18:45 グランドエル・サン

#### 保険衛生福祉

- (1) 庄内 AMR 等対策ネットワークコアメンバー臨時会議について (岡田理事)  
1 月 14 日(火) 16:30 オンライン開催
- (2) 田川学校保健会表彰式・研修会について (福原会長)  
1 月 23 日(木) 13:15 鶴岡市総合保健福祉センターにこ・ふる
- (3) 新型コロナ等の感染状況について (蘆野理事)
- (4) 年末年始の休日夜間診療所について (菅原副会長)

#### 在宅サービスセンター

- (1) 在宅サービスセンター運営委員会について (本田理事)  
1 月 24 日(金) 19:00 会議室

#### ケアプランセンター・地域包括支援センター

- (1) ケアプランセンターふきのとう運営委員会について (中目理事)  
1 月 23 日(木) 19:00 会議室
- (2) 地域包括支援センターつくし運営委員会について (中目理事)  
1 月 23 日(木) 20:10 会議室

#### 介護老人保健施設

- (1) みずばしょう運営委員会について (渡邊理事)  
1 月 16 日(木) 19:00 会議室

#### そ の 他

- (1) 鶴岡警察署 検視立会及び検案依頼状況について (福原会長)
- (2) 産業医等の推薦依頼にかかるご協力のお願について (福原会長)
- (3) 荘内病院で新規開設する便のドナー外来について (鈴木理事)

### 協 議

- (1) 職員の採用について (菅原副会長)
- (2) 令和 7 年度 鶴岡地区医師会事業計画 (案) について (福原会長)
- (3) 総務委員会について (菅原副会長)  
1 月 10 日(金) 19:00 会議室
- (4) 用度委員会小委員会について (三浦理事)  
1 月 23 日(木) 10:00 会議室
- (5) 委員の推薦依頼について (事務局)
- (6) 後援の依頼について (事務局)

## 令和 6 年度 第 11 回 定例 理事会

(令和 7 年 2 月 25 日)

出席者	会 長	福原晶子				
	副 会 長	石原 良	菅原真樹			
	理 事	武田憲夫	三原一郎	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏
		岡田恒人	鈴木 聡	三浦道治	渡邊秀平	中日哲平
	監 事	阿部周市	真島英太			
	議 長	堀内隆三				
	副 議 長	三井卓弥				
	事 務 局	土屋清光	五十嵐亜希	渡部恵美	遠藤 睦	

### 報 告

#### 総 務

- 県医第 9 回常任理事会について（鈴木理事）  
2 月 12 日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- 総務部運営委員会について（菅原副会長）  
2 月 3 日(月) 19:00 会議室
- 鶴岡みらい健康調査推進会議について（福原会長）  
2 月 6 日(木) 18:30 オンライン開催
- 郡市地区医師会長と県医師会との連絡会議について（福原会長）  
2 月 8 日(土) 15:30 かみのやま温泉 葉山館
- 主治医研修会について（菅原副会長）  
2 月 25 日(火) 録画配信
- 会員の退会について（菅原副会長）  
12 月 31 日付 B 会員 真家 興隆 先生（鶴岡協立病院）
- 職員の退職について（三浦理事）
- 令和 6 年度収支計算報告について（4 月～12 月）（各担当理事）
- 令和 7 年 1 月期事業会計実績について（参考）
- 協力内科医の推薦依頼について（事務局）

#### 医療連携・医療情報

- 地域医療構想モデル推進区域に係るコアメンバー会議について（福原会長）  
2 月 21 日(金) 18:30 オンライン開催
- 鶴岡まるっと地域医療について（福原会長）  
2 月 22 日(土) 14:00 鶴岡市先端研究産業支援センター

#### 保険衛生福祉

- 鶴岡市予防接種対策委員会について（蘆野理事）  
2 月 13 日(木) 19:00 鶴岡市総合保健福祉センターにこ・ふる
- 庄内 AMR 等対策ネットワークコアメンバー会議について（岡田理事）  
2 月 20 日(木) 18:00 オンライン開催
- 新型コロナ等の感染状況について（蘆野理事）

#### 健康管理センター

- 健康管理センター運営委員会について（石原副会長）  
1 月 29 日(水) 19:00 講堂

#### 湯田川温泉リハビリテーション病院

- 湯田川温泉リハビリテーション病院経営委員会について（武田理事）  
1 月 31 日(金) 19:00 講堂

### 協 議

- 令和 7 年度 鶴岡地区医師会会費賦課（案）について（菅原副会長）
- 令和 7 年度 鶴岡地区医師会事業計画（案）について（福原会長）
- 職員の採用について（三浦理事）
  - ・職員採用面接試験  
2 月 18 日(火) 18:30 会議室
- 奨学生の採用について（三浦理事）
  - ・奨学生面接試験  
2 月 18 日(火) 18:30 会議室
- 健康管理医の推薦依頼について（事務局）
- 学校医の推薦依頼について（事務局）

## 令和 6 年度 第 4 回 臨時 理事会

(令和 7 年 3 月 5 日)

出席者	会 長	： 福原晶子					
	副 会 長	： 石原 良	菅原真樹				
	事 務 長	： 武田憲夫	三原一郎	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏	
		： 鈴木 聡	須貝孝一	三浦道治	渡邊秀平	中目哲平	
	監 事	： 阿部周市	木根淵智子	真島英太			
	議 事 長	： 三井卓弥					
	事 務 局	： 土屋清光	五十嵐亜希				
	他 職 員	： 21名					

### 協 議

- (1) 令和 7 年度各会計事業計画・収支予算・内訳明細（案）および固定資産要望（案）について  
(各担当職員)
- (2) 総務委員会について（菅原副会長）  
3 月 3 日(月) 19:00 会議室

## 1 月・2 月 行事 表

1 月 6 日	鶴岡市賀詞交換会	2 月 1 日	県医消化器検診研修会
〃	新年会長挨拶	3 日	総務部運営委員会
7 日	庄内南部地域連携パス推進協議会運営委員会	6 日	鶴岡みらい健康調査推進会議
8 日	県医第 8 回常任理事会	〃	学術広報委員会
10 日	総務委員会	7 日	乳がん症例検討会
14 日	庄内 AMR 等対策ネットワーク コアメンバー臨時会議	8 日	郡市地区医師会長と県医師会との連絡会議
〃	庄内南部地域連携パス推進協議会全体会	10 日	整形外科症例検討会
15 日	緩和ケア症例検討会	12 日	鶴岡市国保運営協議会
16 日	歯科医師会新年祝賀会	〃	県医第 9 回常任理事会
〃	みずばしょう運営委員会	〃	緩和ケア症例検討会
17 日	医師会新年祝賀会	13 日	県医サイバーセキュリティ対策に関する研修会
20 日	庄内地域保健医療協議会	〃	鶴岡市予防接種対策委員会
21 日	南庄内在宅医療を考える会世話人会	15 日	県医学校医大会
22 日	県医師信用組合理事会	17 日	地域 NST 会議「南庄内・たべるを支援し隊」
〃	県医第 12 回全理事会	18 日	職員採用面接試験・奨学生面接試験
23 日	田川学校保健会表彰式・研修会	19 日	消化器検診委員会
〃	ふきのとう運営委員会	20 日	Net4U セキュリティ研修会
〃	つくし運営委員会	〃	庄内 AMR 等対策ネットワーク コアメンバー会議
24 日	在宅サービスセンター運営委員会	〃	Net4U セキュリティ研修会
25 日	薬剤師会新年祝賀会	21 日	地域医療構想モデル推進区域に係るコアメンバー会議
27 日	鶴岡市立荘内病院 小児科学術講演会	22 日	鶴岡まるっと地域医療
〃	定例理事会	25 日	定例理事会
28 日	県医産業医研修会	26 日	地域感染対策合同カンファレンス
29 日	健康管理センター運営委員会	〃	県医師信用組合理事会
30 日	庄内医療圏 CKD 学術講演会	〃	県医第 13 回全理事会
〃	三川町障害支援区分認定審査会	27 日	肺がん検診読影従事者講習会
31 日	湯田川温泉リハビリテーション病院経営委員会	28 日	循環器検診委員会

## 表 紙

## 「大山公園から望む早春の月山」

齋藤 慎

大山公園は尾浦城の跡地を昭和初期酒造業の加藤嘉八郎により整備された。一周約 1.3km の遊歩道があり、標高 43m の高台にあり庄内平野を一望できる。

1532 年上杉氏と交流がある大宝寺城主武藤晴時が尾浦城を築いたと云われる。その後城は最上氏による離反の誘いに乗った家老前森蔵人（東禅寺筑前守）の攻撃により落城、上杉氏が「十五里が原の戦い」で東禅寺氏に勝ち奪還、関ヶ原の合戦で敗戦側の上杉氏は米沢に転封され、最上氏が入城して大山城と改称。1622 年最上家お家騒動による改易により廃城となった。

## 目 次

・表紙	1
・第 44 回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会	2
・鶴岡地区医師会新年祝賀会	4
・令和 6 年度 地域医療連携推進協議会・登録医・医師会・荘内病院合同懇談会	5
・令和 6 年の鶴岡警察署管内における検視立会および検案依頼状況について	7
・新規開業医紹介	8
・Introduction 研修医	9
・My Memories	10
・理事会報告	11
・1・2 月行事表	13
・編集後記	14

## 編 集 後 記

今年の冬は年末寒波や、立春寒波、今期最強・十数年に一度の寒波などとニュースでは報じられ、大雪で大変苦勞された地域の皆様へお見舞い申し上げます。一方、鶴岡市内を見ると積雪も少なく除雪の負担も少なく助かりました。自分が子供のころには 2 月 1 日ごろに「寒休み」があり、朝起きると膝ぐらいまで雪が積もっていたことを思い出し、近年は明らかに降雪量が減り、寒い日で積もることもあります。地球温暖化の影響なのだろうと思うと、夏の猛暑や天候不良による災害の増加、農作物の不作などが心配されます。それに伴い、米や野菜などの価格も気になります。

今号に載っている市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会で菅原副会長が話された「地域医療を支えるために今必要なこと」については、産婦人科・小児科医師の不足についても触れていただき、今後避けては通れないことで一朝一夕に解決できるものではなく、日頃からの取り組みが大切であることを再認識いたしました。

今年度から学術広報委員となり、初めて編集後記を書かせていただきました。時にあとがきを依頼されることがありますが、普段文章を書く機会がないためかいつも苦勞します。今回も頭を悩ませましたが、過去の編集後記も参考にさせていただきました。何とか予定の文字数に達しそうです。最後までお読みいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

(三井 卓弥)

編集委員：菅原真樹・吉田 宏・阿部周市・三井卓弥・真島英太・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <https://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27-1 TEL 22-0936 (代)